

鶴尾城に関する武田一族の続きを掲載します

前号(12月号)からの続き

1567年(永禄9年)、尼子氏を降した毛利元就は伯耆、因幡方面に勢力を伸ばしてきたが尼子残党が再興を図って挙兵、因幡山名豊国と結んで毛利方の武田高信と対立、尼子残党は若桜鬼ヶ城に入って対峙した。

この事態に対処するため毛利氏は草刈景継、武田高信の仲裁に乗り出した。その当時、岩井郡、八東郡は草刈景継の領地であったが、その仲裁内容は岩井郡を武田高信に譲り渡すというもので草刈氏は渋々承知したが不満が残った。この仲裁によって武田高信は因幡の最大勢力となった。

因幡の山名豊国は武田高信の妹婿で但馬の芦屋城主、塩治肥前守を味方につけることに成功した。このことを知った武田高信は芦屋城を攻撃したが嫡男又太郎、与十郎をはじめ一族、家臣の多くを失う敗北を喫した。この機を尼子残党の山中鹿之助が因幡に進攻し甕山城に兵を構えた。武田高信は甕山城を攻撃したが敗れ鳥取城へ逃げ帰ったがさらに敗れ、鶴尾城に退去した。その後、鳥取城は山名豊国が入城し本拠地とした。そして鶴尾城に退去した武田高信への攻勢を強めていった。

その後、弟の又三郎が亡くなったあと衰退の一途となった。

その後、武田高信は因幡山名豊国の謀略をもって讃岐(河原町)の大義寺へ呼び寄せ殺害された(因幡民談記)。またある一説には尼子との戦いで戦死したともあり、高信の最期に関しては明確ではない。

その後、武田氏の一部は帰農し「向国安の古屋敷」、篠田の「篠田千軒」等に散らばったといわれている。この美穂地区(味野郷)は武田一族と深い関係があると思われる。

(美穂郷土誌 2-1-9~2-1-12、2-2-11、8-5 ページ参照)

鳥取市指定文化財(史跡)
指定 昭和三十五年十月一日
所在地 鳥取市河原町佐貫三二番地

武田高信の墓
戦国時代の横行、武田三河守高信は天正六年(一五七八)八月十七日ここ大義寺で山名豊国によって謀殺された。享年五十歳余であった。
中央の空透印塔が高信の墓で、共に死んだ家来の墓が両側にある。大義寺に一間基大義院殿従三位春謀良殿持大居士の法名がある。

鳥取市教育委員会

